

送

歌

一、義憤ぎふんみなぎるますらお益良夫が

若き血潮にきたえたる

その白刃はくじんの一振ひとふりに

銀砂ぎんさを染めん時は来ぬ

二、破るる肉に躍おどり立ち

骸骨がいこつ砕くも蕭条しょうじょうと

砂塵さじんをたてて天をつく

芙蓉ふようを夢と言いうなかれ

三、見よ桜章のきすところ

野花の色もうらかれて

万象ばんしょう声をひそめては

竜車りゅうしゃは永久とわに光あり